

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400216
法人名	有限会社 たんぼぼ介護サービス
事業所名	くま安心館グループホーム
所在地	愛媛県上浮穴郡久万高原町久万2 4 4 番地
自己評価作成日	平成21年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者がこの場所ですみやかに居心地よく生活できるように努力している。職員は食事作りが得意で、おいしい食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員と管理者で毎月、夜間時にミーティングを行っておられ、業務やケアについて話し合っておられる。勤務年数の長い職員が多く、何でも話し合えるような雰囲気となっており、日々のケア記録の書き方を研究して、1枚の紙に書き込めるようにされたり、トイレットペーパーの紙の質について利用者の立場に立って意見交換等もされており、職員の意見やアイデアが多く採り入れられている。

ほとんどの利用者が地元から入居された方で、毎月ご自宅に戻られたり、同級生、顔馴染みの方が訪ねて来られることもよくある。以前、事業所を利用されていた方のご家族が訪ねて来てくださることもある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 くま安心館グループホーム

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

露口 理江

評価完了日

21 年 8 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			会社理念を基とし、安心館独自の介護理念をスタッフで取り決め、日々念頭におき取り組めている。	
			(外部評価)	
			前回の外部評価を受けて、職員で話し合い、「私たちは安心で安全を提供します。」「利用者の立場になりその人らしさを大切にします。」という事業所独自の理念を作成し、居間に掲示されていた。地域の中で「安心」して暮らすということの大切さを、常に管理者は話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			利用者の敬老会、同窓会、また運動会などの地域行事には積極的に参加し、近隣住民と顔なじみになっている。事業所自体、自治会に加入し、行事にはかかさず職員や利用者が参加している。	
			(外部評価)	
			事業所は、町内会に入会し地域行事に参加されたり、時に、ご近所の方が野菜や酒粕等を届けてくださることもある。近隣小学校の子ども達が授業の一環で事業所に訪れてくれたり、保育園児と一緒にクッキー作りをすることもある。ご近所の方が赤ちゃんを連れて来てくださり、利用者の話し相手になってくださることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			地域運営推進会議を主な媒体として、認知症への理解や支援の方法を説明している。事業所の所属する自治会のほとんどが高齢者で、地域推進会議において介護の方法などの質問もあり、日々の生活に活用していたということが推測される。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で出席者から出された意見を、スタッフ ミーティング等で伝達し日々の向上に活かしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、運営推進会議を昨年は4回、今年は6回 開催することを目標とされている。ご家族や地区会 長・民生委員の方等にも参加いただいております。地域包 括支援センターの担当者から「運営推進会議を夜間に 公民館で開催して、認知症に関する勉強会を開き、地 域に公開してはどうか」とのアドバイスをきっかけに して、来月に実施する予定となっていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月ケア会議に出席し、久万高原町や他の関係機関と 連絡をとり、常に情報交換を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者が施設を移る際や成年後見制度の利用につい て、町の担当者と相談しながら支援されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「指定基準」についてはスタッフミーティングで周知 徹底を行い、利用者に危険が及ばない限り、身体拘束 をしない介護が出来ている。夜間は人通りの少ない古 い民家で、スタッフが女性のため、防犯上玄関は施錠 を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>町主催のケア会議等で、身体拘束をしないケアにつ いて勉強したこと等を全職員に周知されている。利用者 への言葉かけ等にも注意し、気になる職員には、管理 者が後でさりげなく注意を促すようにされている。玄 関等は、利用者が自由に出入りできるようになってい た。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 介護理念に基づき、利用者の人格を最大限尊重した介護にとりくんでいる。高齢者虐待に関する外部研修にも積極的に参加している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の身元引受人が高齢化等により、利用者の諸手続き等が困難になり、地域包括支援センターの協力を得て成年後見人制度を利用するケースがあった。関係者と話し合いの場をもち円滑に手続きができた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約、改定は、口頭で十分な説明をした後に書面での契約をとりおこなっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に家族の方を招待し、又、民生委員、役場の協力を得ながら運営委員会を開き、意見を反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 2カ月に1回、ご家族にホーム便りを送付し、事業所の様子をお伝えしている。又、お誕生会やクリスマス会等には、食事をご家族とともに楽しめるよう案内されている。ご家族から「居間等に、もう少しくつろげる椅子があればいいのでは」というご意見もあり、事業所ではソファを増やされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員は意見交換が自由にできる良い関係にある。遠隔地にある代表者とは、管理者が1ヶ月に1回、本社であるミーティングに、それ以外は電話連絡等で職員の意見を伝達している。	
			(外部評価) 職員と管理者で毎月、夜間時にミーティングを行っておられ、業務やケアについて話し合っておられる。勤務年数の長い職員が多く、何でも話し合えるような雰囲気となっており、日々のケア記録の書き方を研究して、1枚の紙に書き込めるようにされたり、トイレトペーパーの紙の質について利用者の立場に立って意見交換等もされており、職員の意見やアイデアが多く採り入れられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 常勤・非常勤を問わず、資格取得者は昇給させるため、職員の資格取得への関心は高い。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員個々に必要と思われる研修に参加させている。介護関連の資格取得ができるよう、勤務を組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 公的な連絡会には欠かさず出席している。他事行所への訪問を行ったり、見学も受け入れているが、相互訪問等の活動は出来ていない。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の利用者の状況を把握しきれないところがあり情報不足になっていた。その為入所後本人との円滑な関係を築くことが困難なケースがあった。その後は、入所前に本人宅を度々訪問し、観察し、スタッフと入念な打ち合わせ後受け入れをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前に家族の方とも入念な話し合いの機会を持ち、入所後は密に連絡をとるように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の状態・介護認定の様子・家族の希望などを聞き適切な支援をするように努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家事手伝いを利用者からすすんでしてくれる機会が増え、一緒に行っている。そのときの会話により、教えられる事も多い。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の状態が不安定なときは、家族さんに面会や電話などをお願いして協力を得ている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>墓参りや、同窓会への出席など希望があればスタッフ同伴で対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昨年は、利用者が同窓会に出席するため職員が同行し、東予まで出かけたことがあった。ほとんどの利用者が地元から入居された方で、毎月ご自宅に戻られたり、同級生、顔馴染みの方が訪ねて来られることもよくある。以前、事業所を利用されていた方のご家族が訪ねて来てくださることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がよく話をされており、他の利用者を助けてくれている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も交流を持ち続けている家族もいるが、こちらからのコンタクトをとっていない家族もあり、契約終了後本人死亡の知らせのみ届く場合がある。(今までの退所者は医療機関入院のための退所が多いため。)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人希望を言いやすい環境が出来ている。様々な希望が日々出され、スタッフ全員が共有できるようにしている。自ら希望を言わない利用者さんの意向を汲み取れるよう多くかかわりを持つように努力している。	
			(外部評価) 「カラオケをしたい」「温泉に行きたい」等、利用者からの要望はその都度、対応できるよう努めておられる。希望をあまり表出されない利用者もあるため、職員は、その方に合わせて選んでもらえるように提案する等、気を付けて声かけするよう心掛けておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 趣味を続行して行えるよう、庭の整備やスポーツの場の提供を行っている。また、飲酒・喫煙についても、主治医と相談しながら柔軟に対応している。入所前の生活の聞き取りを細かく行い、生活の継続性を大切にするよう心がけている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) それぞれの希望を取り入れ一人ひとりの生活リズムに合わせ努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>全員揃っての会議開催が困難なため、本人への聞き取りを行い、また家族さんや主治医のなどの意見も取り入れ、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、利用者一人ひとりについて、毎月、介護計画に沿った目標を定めてケアに取り組んでおられる。ご家族や担当医とも話し合い、介護計画は6カ月ごとに見直しを行なうようになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回全職員参加のミーティングを夜間に行っている。その時に様々な意見を出していき、話し合い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人のみならず、家族さんの現状を把握して、外泊希望や外出の調整を行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>推進会議に参加していただいた民生委員の方や、自治区会の方と利用者の方が、話をできる機会を持てるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は本人・家族の希望を尊重している。在 宅診療をしてくれる先生が4月から開業され、将来重 度化した時のことも考えられ、かかりつけ医の変更を 希望される家族さんも増えてきている。	利用者が重度化した時のことやいざという時のことを 考慮して、ご本人やご家族と相談を重ねて、納得のい く医療を受けられるよう支援していかれてほしい。 又、ご家族の不安や心配事を聞くような機会等も設け てはどうだろうか。
			(外部評価) 現在、受診しているかかりつけ医は、夜間の対応がむ づかしいということもあり、利用者の数名、在宅診療 医と個別に契約を結び、月2回の往診を受けておられ る方もいる。電話で相談されたり、夜間も対応してく ださるようになってきている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の情報を往診の時に伝え、的確な受診が行える ように支援している。また、友人の看護師に相談して 協力を得ている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際、入院治療計画を病院から聞き、 長期になる場合は、退院後の受け入れ先を関係者間で 話し合い決めている。短期入院で退所後再入所される 場合は医療機関と連絡をとり、退院後の生活を安心し ておけるよう支援している。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にすでに認知症が重度化していた利用者が多 く、本人の意向をターミナルに反映することが困難な ため、家族さんの希望が反映される場合が多い。前回 の外部評価後、家族と話し合いを持ち、最後までここ でという希望をされている方が何人かいる。	今後、事業所では、「看取りの指針」を作成したいと 考えておられる。利用者やご家族の希望に応じていけ るよう、チームで一丸となって支援できるような指針 の作成をすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 管理者は、町主催の勉強会でターミナルケアの勉強を されており、「病院やご家族との連携等、具体的なお 話を聞きたいへん役立った」と話しておられた。事 業所での暮らしが長い利用者のご家族のほとんどが、 「ここで最期を過ごしたい」と希望されている。数名 のご家族とは、終末期の支援について話し合いされて いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 今年も全職員が、普通救命講習(AED対応)を受講している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年地域の方に参加していただき、避難訓練を実施している。その際安心館内の見学をして居室の状況など確認してもらっている。 (外部評価) 町内でも住宅密集地にある民家改修型の事業所で、立地条件上、前の道路には救急車や消防車は入れない。そのようなこともあり、スプリンクラーの設置や消防署との連携、地域の方も参加いただき避難訓練を行う等、安全に向けて積極的に取り組んでおられる。	
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 失敗や迷惑行為をした時は、他の利用者にできるだけ気づかれないようフォローするよう心がけている。中には大声で反論され、他の利用者に気づかれ利用者が利用者を叱責される場面も見られるが、スタッフが介入しトラブル回避している。 (外部評価) 時に、利用者の方が職員を慰めてくれたり、職員も利用者に寄り添う等、支え合いを大切にされている。入居間もない利用者の方が不安な様子の中には、職員を増員して、ゆっくり見守り、対応することで次第に落ち着かれたという事例もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出・入浴など必ず本人の希望を確認し、決め付けにならないよう本人の気持ちを優先している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	中には、当日に外出希望される方もあるが、対応するように努めている。入浴時間は決めてなく、調子により朝・夕の入浴もある。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	館内数箇所に鏡を設置し、利用者自ら身だしなみを気にするようにしている。近隣の美容室や、理髪店に行き好みの髪形にしてもらったり、洋品店にいき好みの服を購入してもらったりしている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	日常の献立は、利用者の意見を取りいれている。季節を感じることでできる献立作りをしている。嫌いなものは個別にさけおいしく食べれるよう支援している。準備や片付けは個々の能力を見極め無理のない範囲でしているが、一部の利用者に偏る傾向がある。
			(外部評価)	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	1人ひとりの健康状態に合わせた量に調整できている。水分量の少ない人には他のものにかえて対応している。(ポカリや牛乳など)尿量のチェック、摂取量のチェックを細かく行い、栄養・水分の過不足がひとめでわかるようにしている。
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	口腔ケアチェック表を利用者の目につく所に貼り、自発的な口腔ケアを促している。自発的に出来ない利用者には声かけを行い、不十分な所は、職員が介助を行い細かいケアを行っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 早めの声かけをおこない、日中は極力布パンツの対応をしている。トイレに座る事自体難しい方にも気長に声かけするように努めている。 (外部評価) 現在は、紙パンツを使用されている利用者が多いが、できるだけトイレで排泄できるよう声かけして誘導されている。居室にポータブルトイレを置いて、夜間時に利用されている方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の人には、朝食前に牛乳を飲んでいただき、適度な運動や食材にも気をつけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の体調・希望を取り入れ、自由な時間に入浴するようにしている。夏場は入浴期間が短くなるよう、また、受診前日は入浴できるよう臨機応変に対応している。 (外部評価) 風呂は毎日沸かして、3日に1回は入浴できるようすすめておられる。お風呂を嫌がる方もあるが、タイミングをみて声かけされている。冬季は脱衣所等に暖房を入れて、利用者が入りやすいよう配慮をされている。	お風呂が2階にあるため、現在、車椅子を利用されている利用者の方の入浴時は、職員がおぶってお連れしている。利用者が重度化した場合でも、個々がゆったりとリラックスして入浴できるような設備や環境、支援について工夫や改善を重ねていけるよう、この機会に法人も含めて話し合われてみてはどうだろうか。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 冬は電気毛布、夏はエアコン・扇風機などそれぞれの希望に応じて対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬は職員見守りでしていただき、セット時服薬時と二重の確認を行っている。処方箋には必ず目をとうし慎重に対処している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の趣味や特技を尊重し、また、飲酒・たばこなど無理のない範囲でしていただいている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物希望には、職員同伴で行き買い物されている。同窓会にも主治医・幹事の方の協力を得、職員同伴で参加されている。	
			(外部評価) 季節ごとの花見や敬老会、小学校の運動会や夏祭り等、地域行事等、外出の機会を作っておられる。日々、近くのスーパーに職員と食材の買出しに行かれる方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則的には、金銭管理帳をつくり預かっているが、本人希望の方は、一部分を自分で管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 館の電話は自由に使用してもらっている。年賀状などは、手助けを行い、毎年だしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安全に過ごせるように照明は常時つけている。食堂でのテレビの音が1階居室の方の不快にならないように注意している。今の季節は除湿機能にエアコン調節し過ごしやすい温度を保つようにしている。	
			(外部評価) 居間の窓は大きく、自然の光や風がよく入るようになっている。調査訪問時、居間のソファでテレビを見ながら、くつろいでおられる利用者がおられた。中庭を見渡せる2階廊下にもソファが置かれていた。冬の寒さ対策のため、居間と居室は床暖房になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング・廊下のソファは自由に使っていたり、共用空間でも自然に自分の居場所が決まっており、譲り合い仲良く使っている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、本人希望の品を自由に置いていただいている。お位牌を持ってこられ毎日手を合わせてたり、趣味の折り紙・裁縫をして過ごしている。	
			(外部評価) 居室には、テレビやタンスを持ち込まれていたり、使い慣れた食器戸棚からお好きな食器を出してお茶を飲む方もある。折り紙細工や人形等、自作のものを飾っておられる方もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 目のつく場所に大きく掲示したり、見守りやさりげなく声かけを行うように努めている。	
			(外部評価)	